

# 第2次黒部総合振興計画審議会

## 第1回第2部会【産業・観光】

### 議事概要

日時：平成28年12月1日（木）10:00～11:26

場所：黒部市役所 202～203 会議室

出席者：委員6名（欠席2名）、専門委員1名（欠席なし）

幹事0名（欠席1名）、計画主任4名（欠席なし）、事務局4名

#### 議題（主旨）

1. 開会
2. 部会長あいさつ
3. 報告事項
  - （1）計画策定に係るこれまでの経過について
  - （2）各委員からの意見・提言について
4. 協議事項
  - （1）第1次総合振興計画の成果について
  - （2）施策の現状・課題及び施策推進の方針等について
  - （3）施策体系（まちづくり方針・施策区分等）について
5. 閉会

### 主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

#### 部会長あいさつ

○部会長：12月になり忙しい中、本日の部会にご出席いただき感謝する。本部会は商業や工業、農林水産業など、人の営みの基本となる内容を扱っており、また近年は人口を増やすために観光も注目されている。これらの4つの産業の活性化を図る方策を検討することが本部会の目的である。

第1回審議会では基本構想、基本計画の諮問を受け、スケジュールを確認した。ま

た、将来像については、第1次と同様の「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち黒部」で決定した。

本部会では、みなさんの活発な議論により、今後の黒部市におけるまちづくり方針や具体的な施策について意見をいただきたい。

## 報告事項

(これまでの経過、各委員からの意見・提言について、事務局より説明)

…委員からは特に意見なし

## 協議事項

(資料3-1、3-2：第1次総合振興計画の成果について、事務局より説明)

- A委員：継続・拡大・縮小・廃止などの4つの区分について、第1次計画における成果のことを説明いただいたが、第2次計画に結び付けていく中で、新規の事業を取り入れる可能性についてはどうなっているか。
- 事務局：資料3-1、3-2については現在進めている事業のことを説明させていただいた。新規の事業に関しては、今回ではなく次回以降で提示させていただきたい。今回は施策の体系についての議論をいただきたいと考えている。
- B委員：廃止や縮小となっている事業はどのようなものか。
- 事務局：基本的には、完成した事業を廃止扱いとしているが、一部他事業と統合したため廃止扱いとしたものもある。
- 農林整備課長：85番の公害防除特別土地改良事業は平成27年度に完了したため廃止扱いとした。また、88番の土地改良整備事業は、これまでハード事業とソフト事業それぞれで分けていたが統一したため、片方を廃止扱いとした。
- 部会長：廃止というより完成・完了という表現の方がしっくりくる。

(資料4：施策の現状・課題及び施策推進の方針等について、事務局より説明)

- C委員：黒部市は中山間地域が重要であると認識しているが、近年、非常に荒廃してきている。また森林そのものも荒廃しつつあり、今後大きな問題となると思われる。中山間地域については現在記載がなく、どこで扱えば良いのかが分からない。どこかに入れるべきである。例えば、所得補償などを⑥の施策の中に入れ込むべきではないか。

- 農林整備課長：中山間地域や鳥獣害対策については、第1部会の「里山の再生」で扱う予定である。地域論ではなく、産業論でもなく、環境論である。
- 農業水産課長：農業生産の分野でも、中山間地域の対応は大きな課題であると認識している。日本型直性支払いについては、産業政策として対応すべきか、地域政策として対応すべきかという考え方もあるとは思いますが、難しいところである。産業政策分野として、資金の支援については農業生産体制支援事業の一部として考えてもよいと思う。
- C委員：県の計画のように、再掲してもよいのではないかと。特に2つの切り口があるものについては、併記してはどうか。
- 事務局：現在の振興計画では、資料3-2の86番に農村環境の整備のことが記載されている。第2次計画においても、このメニューの中で扱うこととなると考えられる。再掲ではなく重複という形になるかもしれない。
- C委員：中山間地域対策は、環境というよりも農林業という感覚が強い。また、現在の体系では、中山間地域という概念が無いのではないかと。政府としても、今後中山間地域の振興を進めると思われる中、市町村としても取り組むべきではないかと。
- 部会長：近年は「環境」の切り口が先行しているように感じる。
- 事務局：中山間地域に関しては第一部会で取り上げているが、そこでは環境面からの視点が強い。
- D委員：九州や四国では、中山間地域の対策は観光と結び付けているケースも多くみられる。10年のスパンではどのようになっていくのかの予測も難しいが、大きなスパンで位置付けていくことが重要である。四国ではお年寄りばかりの地域に都会の人が訪れるなど、過疎が進んでいる地方に都会の人が環境を好んで訪れているケースや、外国人に古民家に泊まってもらったりしているケースもある。
- 部会長：徳島県では高齢者ばかりの地域で葉っぱビジネスを進めているケースもある。
- B委員：黒部市の山手では、サルの子もみられる。それが観光資源となりえるかは分からないが。
- C委員：黒部市の農業は、平野部では6割が法人（共同）であるが、中山間地域では3割程度である。それ以外の7割は高齢者の個人経営のケースが多いと想定されるため、今後の衰退が懸念される。
- E委員：農業については労働力不足が深刻であり、外国人労働者に対応してもらっているケースも全国的に見受けられる。働き手と客とのバランスも悪くなってきている。
- 部会長：外国人労働者の確保も今後検討する必要があるかもしれない。
- A委員：外国人労働者は、法規制がまだ厳しい状態である。また違法に来日するケースも懸念され、今後はインターンシップで来た人に対応してもらうなどの対応も

考えられる。

(資料5：施策体系について、事務局より説明)

- A委員：資料5の施策の体系（事業メニュー）に関する審議は、今回のみなのか。
- 事務局：できれば今回の部会で決定してもらいたい。
- A委員：事業メニューにおいて、新たに設けた項目は3つ程度と少し寂しい。前回からあまり変わっていないようにも見える。例えば観光でも新幹線の開業により、観光の状況も変わりつつあるなど、時代の流れを反映していくべきである。
- 部会長：これまでに進めてきた事業メニューも盛りだくさんであるため、継続しなければならぬものも多いとは思いますが、新規項目が3つしかないのは確かに寂しい。
- 商工観光課長：現在、新幹線開業後6年間を対象とした観光振興計画を策定中である。この計画ではこれまでの観光に対する考え方をかなり変え、インバウンド対策、冬場の対策、戦略的なPRなど、大きな視点に立った内容を盛り込んでいる。計画がとりまとまったら総合振興計画にも反映していきたい。観光面は10年前からかなり変わりつつあると認識している。
- B委員：今回、部会に初めて参加させていただいたが、新幹線の開業により、人の交流は盛んになったが、物流の問題はまだ後進的なのではないか。例えば、新川地区から太平洋側へ抜ける道路の実現など、黒部市が中心となって進めるべきではないか。長野県は中央道を活用できるため、うらやましい限りである。
- 部会長：隣県が国道でつながっていないのは富山県と長野県くらいと聞いている。
- D委員：13kmのトンネルがあれば、黒部川の土砂の搬送も容易になる。けやき平の展望台も現在はあまり活用されていない。今後の対策のためには道路が必要である。
- 部会長：宇奈月ダムと出し平ダムの2つに関連して、50万立米の土砂が海へ流出している。これを10トントラックで搬送すると、相当な数になってしまう。
- 事務局：長野との直通トンネル構想は、朝日から抜けるルート、上市から抜けるルートなどの3本があり、関係団体が要望していると聞いているが、総合振興計画においては実行性を重視したいと考えており、今後10年間で確実視されるものを掲載したいため、構想段階であるこの道路の事業については少し横においてほしい。
- A委員：現在、道の駅の話が出てきているが、第2部会全体に関わる内容であると思うが、本部会で取り上げないのか。
- 事務局：第3部会（都市基盤）で取り扱おうと考えている。
- A委員：運営するのは第2部会とも関係が深いのでこちらの部会でも取り扱いをさせてもらいたい。
- C委員：道の駅で販売する際には、品薄にならないよう、安定した品物を確保する

ための方策を行政にお願いしたい。

- 事務局：道の駅での特産物販売活動については、生産流通販売促進事業の中の事業として、本部会での議論も構わない。
- 部会長：黒部牧場などの生産体制の充実も必要である。
- A委員：道の駅の運営などは取り扱ってもよいのではないか。
- 部会長：道の駅に関しては、ここ2～3年でかなり具体的に進む内容なので、議論すべきである。
- D委員：複数の部会にまたがるものも多いと思うが、文化との関係性もある。観光も文化とまたがってくる。これをどのように扱っていくか。縦割りの部局をどうするかは今後の課題である。
- D委員：林道の工事のやり方についてであるが、積もっていた雪が消えると土砂がたまり、梅雨時期にせき止める原因となる、その結果、本来とは別のところに水が流れていってしまう。黒部市と合併してから、あまりにも酷いと感じている。旧宇奈月町では、土砂を排除して流れを確保していた。登山者が増えている中、通行止めとなっているのも良くない。
- 農林整備課長：近年多発している、局地的な豪雨により被害が発生している。平成25年くらいから通行止めをしているが、これまでにある程度の整備ができたこともあり、来年度から通行止めは解除したいと思っているが、山岳地にある道路であることや、予算との絡みもあり、常に現在の状態を維持できるかは何とも言えない。
- 部会長：今後、事務局でまとめてもらいたい。
- 事務局：道の駅の活用、観光に関する新しい視点については、今後事務局で検討させてもらいたい。
- F委員：宇奈月温泉において、空き家の活用や、チャレンジショップの活用など温泉街の活性化について、今後考えてもらいたい。また、地域おこし協力隊についてはどこで扱うこととなるのか。
- 事務局：第6部会（協働・行財政）で扱う。
- F委員：地域おこし協力隊は、黒部には1人しかいない。今後は増やしていくことが必要である。
- 事務局：来年度以降、人数を増やしていきたいと考えているが、ただ増やすだけでなく、どの地域で、どんな内容とするのかなど、今後調整していくことが必要である。
- E委員：今協力隊で活動している人も、3年後にはどこかに就職先を探さなければならない。
- C委員：鳥獣害対策の推進について、どこかに入れてもらいたい。
- 事務局：鳥獣害対策については、第1部会（観光・安全）で扱いたい。
- 農林整備課長：有害鳥獣対策については、県の協力を得て進めている。例えばイノ

シシについては去年 60 頭であったのが今年 11 月末で 100 頭を超えており、獣肉のジビエや観光などに活かさないかを検討している。

## 閉会

---

- 事務局：次回の第 2 回第 2 部会は、2 月 1 日（水）14:00 より行う。
- A 委員：意見を出せるような仕組みを考えてもらいたい。
- 事務局：審議会でご説明させていただいた意見書にこだわらず、F A X でも電話でも、いつでもご意見をいただければと思う。

以上